

# もりおか

広報 2017

11月15日号(No.1469)

認知症の人を  
みんなで支えるまちに

## ◆主な内容◆ (平成29年11月15日号)

リースフェスティバル、防災タウンページを配布、動物公園へ行こう、都市景観賞決定	2ページ
子育て情報ひろば「カダッテ」、健康ガイド	3ページ
行政の人事公表	4ページ
市立病院決算、講座情報pick up	5ページ
各種講座情報	6~7ページ
写真deもりおか「私たちの作品展」	10ページ

こんにちは。困っているようですが、どうかしましたか

実は、自分の家がわからなくなってしまって帰れないんです…

## あなたもできる 声掛けのポイント

- 1 驚かせない
- 2 急がせない
- 3 自尊心を傷つけない

見た目で認知症かどうかを判断することは困難です。困っている人がいたときは声を掛け、「自分の家が分からない」など、会話の中で認知症が疑われたら、長寿社会課や警察、地域包括支援センターへご連絡ください

家族が心配な人は…

## ●盛岡広域シルバーケアSOSネットワークシステム

認知症で徘徊が心配な高齢者を事前に登録。行方不明になった場合などに、警察や行政、地域包括支援センターなどが連携し、早期発見につながる仕組みです。各警察署と市長寿社会課、地域包括支援センター、介護支援センターで登録できます。手続きをする人の印鑑と登録される人の容姿が分かる直近の写真をお持ちください。

あなたも支える一員に！

## ●まちcomiメール

認知症高齢者が徘徊で行方不明になったとき、その情報などを警察(防犯協会)から一斉にメールで配信する仕組みです。家族以外の人でも登録することで、早期発見につながります。登録は、右のQRコードを読み込んで、空メールを送信してください。



まちcomiメールのQRコード

認知症で徘徊する高齢者を見つけたときの対応を学ぶ「認知症声かけ・保護訓練」(青山地区活動推進会和青山地区まちづくり協議会、青山和敬荘地域包括支援センター主催)が10月27日、同地区で行われました。

徘徊者の早期発見・安全確保と住民同士のネットワークづくりを目的としたこの訓練は、市が進める地域包括ケアシステム\*の構築に向け、27年度に同地区がモデル地区となり第1回を開催。参加した住民はその後も自発的に、認知症の予防セミナーや高齢者が住みやすいまちづくりを考える勉強会などを重ね、認知症に対する理解の輪を広げてきました。第1回では約50人だった参加者も年々増加し、3回目となる今回は約100人に。また、徘徊者の保護場所として、商店6店舗が新たに加わりました。青山地区活動推進会の築田幸副会長(76)＝青山三＝は「認知症の徘徊自体を問題と捉えず周囲に見守る環境があれば、たとえ認知症になっても今まで通りの生活ができる」と訓練の意義を語り、「認知症の人に限らず、高齢者や障がいのある人、子どもなど困っている人がいたら声を掛け合い、安心して暮らせる地域にしたい」とさらなる支えあいの推進を願います。

【問】長寿社会課 ☎613-8144

\*高齢者・要介護者などが、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けられるように、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する仕組み